

令和五年度 個別学力検査

国語

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この冊子は、二十二ページあります。
- 3 試験開始後、すべての解答用紙に氏名(カタカナ)及び受験番号を記入しなさい。受験番号が正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。また、氏名(カタカナ)及び受験番号以外の文字、数字などは、絶対に記入してはいけません。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。解答用紙は一枚です。
- 5 この冊子は、試験終了後持ち帰りなさい。

令和5年度個別学力検査

人文社会学部 教育其月日 程
国語 問 是 真

名古屋市立大学 学生課人試係 052-853-8020

許可なしに転載、複製
することを禁じます。

問題訂正 1

科目名：国語

〈訂正一〉

□ 四ページ 右から一行目

(誤) …東洋史学者のである…

(正) …東洋史学者である…

〈訂正二〉

□ 四ページ 右から十行目

(誤) それからあえて…

(正) それからからあえて…

〈訂正三〉

□ 十ページ 右から五行目

(誤) この文書の後半で、…

(正) この文章の後半で、…

問題訂正 2

科目名： 国語

〈訂正四〉

二 十四ページ 左から 二行目

(誤) … アイケンヴァルト…

(正) … アイケンヴァルト…

〈訂正五〉

二 十五ページ 左から 四行目

(誤) … (visual, nonvisual, sensory, inferred)

(正) … (visual, nonvisual sensory, inferred)

〈訂正六〉

二 十五ページ 左から 三行目

(誤) … (visual, nonvisual, sensory, reported)

(正) … (visual, nonvisual sensory, reported)

一

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

(安藤礼二遠野、山に囲まれた高原の湿地)にもとづく

問一 文中傍線部①から⑤のカナは漢字にあらため、漢字は読みを答えなさい。

問二 文中の空欄①から⑤に最も適切に当てはまる語彙を左の語群から選び、記号で答えなさい。選択肢は何度使っても良い。

- a 歴史 b 縄文 c 弥生 d 交通 e 新人 f 原人

問三 この文書の後半で、筆者は諏訪地方について言及しているが、なぜ諏訪を取り上げたのか、その理由を説明しなさい。

問四 文中傍線部A「習合」の意味を、問題文全体を踏まえて説明しなさい。

問五 文中傍線部B「民俗学のもっていた可能性」とはどのようなことか、説明しなさい。

問六 筆者の考える柳田國男の「山人」論について「常民」と絡めて説明しなさい。

二

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

(工藤真由美・八亀裕美『複数の日本語 方言からはじめる言語学』の文章にもとづく)

注 語彙的な手段として、日本語には「ようだ」「らしい」「みたいだ」などがある。また、条件節で表す場合には「一見すると
きれいだか」「やってみたら(面白かった)」などがある。

問一 冒頭のマンガとその説明に関する次の問いに答えなさい。

〔一〕 文章中の2つの空欄①②を埋めなさい。

〔二〕 冒頭のマンガの台詞にある「ビックリしてよ」の主語を答えなさい。

問二 エヴィデンシャリティーとはどういったものを指すのかについて、文中の語を用いて簡潔に説明しなさい。

問三 沖縄方言と中田方言はエヴィデンシャリティーを表す形もっている点では同じだが、用法が異なる点について述べている箇所を見つけ、当該形式段落の最初の五文字を書きなさい。なお、句読点は文字数に含める。

問四 文中の波線部「広い視野から言語現象を観察すること」の意義について、筆者の文章から読み取れることを簡潔にまとめなさい。

三

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

『宇治拾遺物語』にもとづく

問一 文中の波線部A、Cを、現代語訳しなさい。

- A 無下に限りで見ゆる程に、よろしうなりて
- B 極楽の迎へいますらんと待たるるに
- C 手を摺りて悦びつつ終りにけり

問二 文中の傍線部ア「見るやうに」から始まる僧都の台詞はどこで終わっているか。台詞の最後の五文字を文中から抜き出しなさい。なお、句読点は文字数に含めない。

問三 文中の傍線部イ「こはなんぞ。かくは思はず。」とあるが、(1)「僧都が予想していたこと」と「その根拠」、(2)「実際に起こったこと」と「その理由」を、それぞれ説明しなさい。

問四 文中の空欄Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに入るもつとも相応しい語句の組み合わせを、次の選択肢1～6の中から選び、記号で答えなさい。

6	5	4	3	2	1
Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
…とくとく	…さばかり	…まして	…とくとく	…さばかり	…まして
Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
…さばかり	…まして	…とくとく	…まして	…とくとく	…さばかり
Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
…まして	…とくとく	…さばかり	…さばかり	…まして	…とくとく